

1 取り上げる人権課題「女性」

2 取り上げた人権課題の背景と現状

歴史上、「家系」を重んじる風習から嫡男が大事にされ、女性の仕事は家事であり、子供を養育し家庭を守ることであると考えられてきた。明治になり、近代国家がつくられても、女性は従属的な地位に立たされ、選挙権や被選挙権が与えられず、政党と政治活動の参加も禁止されていた。高等教育を受ける権利もなかった。しかし、同じく明治期に、そのような性別による差別に立ち向かう女性解放運動が盛んになることで、女性の権利は拡大されていった。

そもそも、男女平等の理念は、日本国憲法に明記されており、男女平等の原則が確立されている。しかし、現実には今なお、「男は仕事、女は家庭」と男女の役割を固定的に捉える人々の意識や「男性の方が女性より優れている」という見方が社会に根強く残っており、家庭や職場において様々な男女差別を生む原因となっている。夫・パートナーからの暴力、職場におけるセクシャルハラスメントや妊娠・出産等を理由とする不利益取り扱い（いわゆるマタニティハラスメント）等の問題も、女性の人権に関する重大な問題である。

3 児童の実態

【アンケート調査等からみた本学級の実態】

日常的な児童の姿をみると、「男の子なのだから泣かないよ」「女の子なのに引き出しが汚いね」といった、男はこうあるべきで女はこうあるべきといった性別によって決め付けた見方がみられた。そこで、本学級の児童に、「男らしさ、女らしさとは何か」というアンケートを行い、意識調査をした。

	仕事	見た目	スポーツ	能力
男性	・会社員(8人) ・大工(8人)	・髪の毛が短い(12人) ・めがね(2人)	・サッカー(17人) ・野球(19人)	・足が速い(16人) ・力持ち(5人)
女性	・看護師(11人) ・花屋(11人)	・髪の毛が長い(11人) ・髪を結んでいる(3人)	・バレエ(9人) ・シンクロ(4人)	・字がきれい(8人) ・おしゃれ(6人)

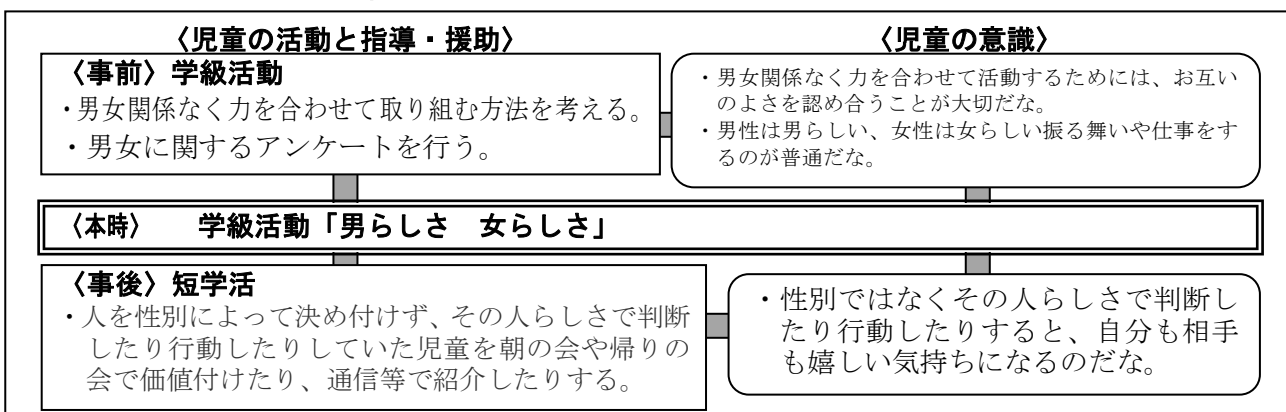
上記の結果より、本学級の児童は、男女の仕事、見た目、スポーツ、能力において、男性はこうあるべき、女性はこうあるべきといった見方や考え方をしていることが分かった。無意識のうちに自分の中にある男性はこうで、女性はこうだというイメージだけで勝手に判断をして、憶測で性別によって決め付けた見方や考え方をしていることに気付いていない。この要因は、幼いころから自分が見たり聞いたりしてきた男性や女性に対する印象を基に、それに当てはまらないことはおかしいと考える意識があるからだと捉えた。

そこで、本時では、無意識のうちに自分も決め付けた見方をしており、そのような偏見が人を深く傷つけたり苦しめたりすることに気付かせ、性別による差別で苦しむ人をなくすために自分ができることを考えられるようにしたい。

4 指導改善の手立て

- ・澤選手をいじめた側の気持ちを考えた後、「みんなは男と女のイメージについてどう思っていたの」と問いかけ、自分にも澤選手をいじめていた人と同じ、「性別によって決め付けてしまう」という意識があることに気付くことができるようにする。
- ・無意識のうちに性別によって決め付けた見方や考え方をしていた自分を振り返り、そのような差別によって傷つく人をなくすために、自分ができることを考える場を位置付ける。

5 事前・本時・事後の指導構想



## 6 本時の目標

澤選手をいじめた理由と自分がもっていた男と女に対するイメージを比べる活動を通して、自分も理由もなく男はこうで女はこうという決め付けた見方をしており、その決め付けた見方がいじめを生み、人を深く傷つけることに気付き、性別による決め付けた見方によって苦しむ人をなくすための方法について実践策をもつことができる。  
(思考・判断・実践)

## 7 本時の展開

過程	主な学習活動	見届ける視点(◇)と指導・援助
つ か む 10 分  見 い だ す 15 分  確 か に す る 15 分  で き る 5 分	<p>1 第1資料から感じたことを交流し、課題をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・転校生が来ることを知る。</li> <li>・その子は髪の毛が短く、野球とサッカーが得意で、将来の夢は大工さん。</li> <li>・クラスの子は男の子だと思うが、その子は女の子であった。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・僕も男の子だと思った。</li> <li>・サッカーをするのは男の子のイメージ。</li> <li>・男の子の方が女の子より足が速いと思う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>男は〇〇、女は～というイメージをもってしまうのはなぜだろう。</p> </div> <p>2 男の子だと決め付けてしまった理由を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男の子の方がサッカーをしている子が多い。</li> <li>・テレビで出てくるのも男の子ばかりだよ。</li> <li>・女の子が男の子より足が速かったら変な感じがする。</li> </ul> <p>3 &lt;第2資料：澤穂希選手の学生時の話&gt;から感じたことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男の子にも女の子にもいじめられてかわいそう。ひどい。</li> <li>・女の子だからっていじめられるのはおかしい。</li> </ul> <p>4 なぜ周囲の子が澤選手をいじめたのか理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女の子がサッカーをするのは女らしくない。</li> <li>・サッカーは普通男の子がするスポーツだからおかしい。</li> <li>・女の子のくせに男の子とばかり遊んでいて変。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>【確かにする場】</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>5 いじめた理由と自分がもっていた男と女に対するイメージとを比べて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・澤選手をいじめた人はすごくひどいと思ったけれど、男はこう、女はこうと決めつけていた自分もその人たちと同じだ。そう思っていた自分が情けない。</li> <li>・自分もサッカーは男のスポーツだと、理由もないのに決め付けていた。もしかしたら知らない間に誰かを傷つけていたのかもしれない。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>自分も理由もないのに男はこうで女はこうと決めつけていた。理由もない決め付けがいじめを生み、人を深く傷つける。</p> </div> <p style="text-align: center;"><b>【学習成立を見届ける場】</b></p> <p>6 今までの自分を振り返り、性別による決め付けた見方によって苦しむ人をなくすために自分ができることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしは今までは、男の子は力が強く、女の子は力が弱いと勝手に思い込み、決め付けていた。こういう男だから、女だからという決め付けがいじめを生み、人を大きく傷つけることが分かった。だからこれからは、男らしいとか女らしいという根拠のない勝手な思い込みで決め付けるのではなく、その人のよさを見つけていきたい。</li> </ul> </div>	<p>◇問題場面を捉え、課題意識をもっているか。(つぶやき)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「みんなもそういうイメージがあるか」と問いかけ、性別による固定的な考えをしていることに気付くことができるようにする。</li> <li>・「女がサッカーをしたらいけない理由ってあるの」と問いかけ、理由もなくイメージで決め付けてしまっていたことに気付くようにする。</li> </ul> <p>◇性別を理由に澤選手がいじめられたことに気付いているか。(発言内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「女の子はサッカーをしたらめなの」「女の子は男の子と遊んだらいけないの」と問いかけ、理由もなく決め付けによって差別されていることに気付くようにする。</li> <li>・「澤選手はどんな気持ちだったか」「澤選手をいじめた人のことをどう思うか」と問いかけ、性別による差別が人を苦しめることに気付くことができるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;"><b>【人権教育の観点】</b></p> <p>自分も理由もなく性別によって決め付けた見方をしていたことに気付き、女性だけが苦しむことなく生活するための実践策をもつことができる。(行動力)</p> <p><b>&lt;そのための手立て&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「みんなは男と女のイメージについてどう思っていたの」と問いかけ、自分も澤選手をいじめていた人と同じで、性別によった決め付けた見方をしていたことに気付くことができるようにする。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;"><b>【評価規準】</b></p> <p>◇性別による決め付けた見方によって苦しむ人をなくすために自分ができることを考えることができる。(記述内容)</p> </div>

---

## 解 説

---

### 1. 人権課題「女性の人権」を上げるにあたって

男女平等の理念は、日本国憲法に明記され、法制上も、男女雇用機会均等法などによって男女平等の原則が確立されています。しかし、「男は仕事，女は家庭」といった男女の役割を固定的にとらえる意識や，ドメスティック・バイオレンス，職場におけるセクシュアル・ハラスメント，出産等を理由とする不利益な取り扱い（マタニティ・ハラスメント）など，女性の人権に関する重大な問題が現在も存在します。

人を性別によって決めつけるのではなく，その人らしきで判断したり行動したりすることができる態度を育てていくことが大切となります。

### 2. 本実践の指導上のポイント

本実践を行うにあたって，自分も「男は～，女は…」というように，性別によって決めつけた見方や考え方をしていることがあるということに気付くことが大切です。第1資料で感じたことを交流し，出された意見をもとに「男は〇〇，女は△△というイメージをもってしまうのはなぜだろう。」と課題化することで，子どもたちに自分も偏った見方をしていたということに気付かせるようにしています。

【確かにする場】において，性別によって決めつけた見方をすることによって人を深く傷つけることもあることに気付かせ，性別だけで偏った見方をしないようにすることが大切であるという自己啓発力を育てようとしています。

【学習成立を見届ける場】で，性別による決めつけた見方によって苦しむ人をなくすために自分ができることを考え自己啓発力を確かなものにするようにしています。